



1_町長を囲みながらの給食 2_町自慢の食材をふんだんに使用した給食 3_大好きなカレーとおしゃべりに笑顔ほころぶ 4_あんぱ柿の説明を聞き入る園児の皆さん

献立

■麦ご飯（町産コシヒカリ）

■牛乳（県産）

■町産野菜のカレー（町産玉ねぎ、人参を使用）

■ロイヤルピーチポークのベーコンと白菜のサラダ

（町ブランド豚「ロイヤルピーチポーク」と町産白菜を使用）

■あんぱ柿と米粉の蒸しケーキ（町産あんぱ柿を使用）

町自慢の食材を活用 「こおりっ子給食」で育む地元愛

町内の幼稚園、小中学校では1月17日、町産の食材をふんだんに活用した「こおりっ子給食」が提供されました。本事業は、幼少期から給食を通して町産の食材に触れ、生産者の思いや町の「おいしい」味わいを知ってもらい、郷土愛を育むために実施しています。当日は、醸芳幼稚園年長組の教室に高橋町長が訪

れ「町内の農家の皆さんが手塩に掛けて作った農作物を、ぜひ味わって」と園児らと一緒に町自慢の味を楽しみました。給食中は、栄養教諭が蒸しケーキに使われたあんぱ柿について、干し柿との違いを解説しながら、生産者の思いを伝えました。園児らは、町長との会話を楽しみながら、特別な給食を楽しみました。

町の農業振興のために 農業委員会が町へ意見書提出

町農業委員会は12月19日、町に対して、地域農業振興のため、現場からの要望や意見などをまとめた「農地等利用最適化推進に関する意見書」を高橋町長に提出しました。

提出後、新規就農者への支援策や地域の担い手となる多様な人材の確保・育成

策検討、遊休農地の発生防止、有害鳥獣対策など、町の農業振興のあり方や地域が抱える課題について町長と意見交換を行いました。今後も、町と町農業委員会が協力し、農業のさらなる発展や課題解決に向けてさまざまな取り組みを行い、農業振興を図ります。



1_高橋町長（左）に意見書を手渡す佐藤徳雄会長（中央）と浅野国英職務代理（右） 2_農業振興について意見交換

地元根差したチーム目指す 福島ユナイテッドFCが来庁

福島市を拠点に活動するサッカークラブチームの福島ユナイテッドFCは12月13日、2024シーズン終了の報告のため、高橋町長を表敬訪問されました。当日は、同クラブの鈴木勇人代表取締役社長と寺田周平監督、針谷岳晃選手が役場を訪れ、2024

シーズンの結果や来シーズンに向けた決意を報告しました。針谷選手は「全試合に出場した分、J2昇格を逃した悔しさや責任は人一倍強く感じている。その悔しさを活かし、来シーズンに向けて引き続き精進していく」と気持ちを新たにしました。



1_クラブの取り組みを話す鈴木社長(左) 2_至福の桃シリーズを手に「他の選手にもPRします」と話す寺田監督(左)と針谷選手(右)

部活動指導員・外部指導者

募集中！

詳細は、右記二次元コードからご確認ください▶



広告

広告